

## 第3回会議における各委員からの御意見と対応（案）について

第3回会議資料	No	御意見	対応（案）	備考
資料2-1（短期研修受講状況）	1	市と町村では人員配置等にも差があると考えられる。市・町・村ごとや方部ごとの内訳等分析してもらいたい。	分析結果については資料2-2のとおりです。	安田委員
	2	研修の対象とする全体人数の規模感と、それを何年かけて研修受講してもらうのかという目標を持つべきではないか。	御意見も踏まえ、市町村に対する追加調査を実施し、その結果も踏まえて短期研修の実施計画を検討しました。具体的な内容については資料2-5のとおりです。	遠藤委員
	3	研修受講者のレベルや研修履行状況に応じた参加者の要件を設定すべきではないか。	市町村向け研修については、基礎的な講座をテーマごとに設定しているため、詳細な受講者の要件は定めないと考えております。 林業従事者向け研修については、現在の案でも一定程度対象者を明確にしており、現行のままとしてと考えております。	金子座長
資料2-2（短期研修実施計画（案））	4	研修実施にあたり、具体的なメリットがないと受講生が集まらないのではないか。	林業従事者向け研修については、現在の案でも資格取得につながる内容としている講座もあります。来年度も講座を実施していく中で受講者の意見も聴きながら、引き続き検討を進めたいと考えております。	松本委員
資料3（長期研修カリキュラム・シラバス（案））	5	長期研修について、俯瞰的な視点でのフローが必要。	御意見も踏まえ、資料4-1のとおり整理しました。	松本委員
	6	シラバスの「研修場所」について、記載を統一すべき。	御意見を踏まえ統一しました。	田坂委員
	8	シラバスNo.54「森林文化」について、「食べられる山菜ときのこ」との記載があるが、「山菜と食べられるきのこ」とするのが正確ではないか。	御意見を踏まえ修正しました。	金子座長
	9	誰がどのように教えるのかという講師に関する議論が不十分である。	講師との調整状況については資料4-2のとおりです。	松本委員
資料3-2（長期研修の評価方法と基準（案））	10	「取組姿勢」について、居眠りや内職等を評価基準とするのではなく、例えば、毎日の講義の終わりに「ふり返りシート」のようなものを記載してもらい、評価するのはどうか。	御意見を踏まえ、ふり返りシート（仮称）により評価するよう基準を修正しました。なお、前回の基準については、科目担当職員が受講状況を確認するための内規として整理しました。 修正後の評価基準（案）については、資料4-5のとおりです。	飯沼委員
	11	科目によっては規定時限数が少なく、少しの欠席でも8割を下回ってしまう可能性があるのではないか。	研修生の履修状況については、一定のまとまりとして科目ごとに評価することが適当と考えているため、科目ごとに8割の基準については現行のままとしていただきたいと考えております。（給付金の要件でもあるため） なお、規定時限数が少ない科目についても、補講等により研修生の確実な履修が図られるよう対応したいと考えております。	金子座長
	12	中間で一度評価し、研修生の習得度を評価する仕組みを構築すべきではないか。	出席状況や取組姿勢については逐次評価を行うとともにふり返りシート（仮）の内容により習得度（履修状況）を確認し、芳しくない研修生に対してはその都度補講等の対応を行うと考えていることから、中間で評価する機会は設けないこととしてと考えております。	金子座長 須藤委員